

総論

満点	150点	目標得点	110点	試験時間	80分	偏差値	75
大問数	4	小問数	90				
【解答形式】		選択式	84/90問	記述式	2/90問	論述式	4/90問
【問題難易度】		C	8/90問	B	18/90問	A	64/90問
※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す							

Topics

- 1：史料・地図・グラフと問題形式も多様で実力ある学生を選抜しようとする大学の意図がよくわかる。まぐれでは合格できない。
- 2：第二次世界大戦後の欧米が例年通り多い、論述問題は例年現代史であるが今年はルネサンスから出題された。文学部でも多かったが時事問題を背景とした出題が経済学部でも見られる。Iは昨年8月のロシアのグルジア侵攻が背景であるし、IVのチベット問題も然りである。9月までに起こった出来事が受験ではテーマとなることが多いがまさしくその通りである。
- 3：世界史だけの知識ではIの旧ソ連の地域紛争は厳しい。経済学部受験生の多くが東大との併願が多いが、地理や政経の知識を持っているとすればかなりの得点も可能か。しかし、東大との併願受験生なら数学受験するのだろうか…。

こんな力が求められる！

- 戦後史の詳細かつ確実な知識
- 世界情勢、特に経済問題に関心を持つこと
- 論理的文章を書く能力

参考図書

- お茶ゼミテキスト、お茶ゼミ問題集、教科書、用語集、史料集・図説（地図が記載されているもの）
- 『現代用語の基礎知識』
- 『そうだったのか現代史』（集英社）

データ&全体傾向

- [前年度(2008)合格者最低点（3科目）] 276点（得点率65.7%）
- [前年度(2008)受験者平均点（地理歴史）] 不明

全90問で構成される本問題のうち確実に得点すべき問題を全問正解し、合否を分ける問題で5割程度正解すると得点は目標点の110点が見込まれる。もちろんA方式の数学受験のほうが定員は多いことを考えれば、また英語、小論文といった他教科の得点状況にもよるが7割という得点率では合格確実とはならないと考えたほうがよい。最低でも73%以上の得点が欲しい。従って本学部に第1志望とする者は問題数が多く、本格的論述問題が4問（90字・160字・60字・50字）含まれることを考えるとじっくり時間をかける余裕がない中で、かなりの世界史の実力を持って望まないとは合格は難しい。合否を分ける問題、難問も他学部と比べるとワンランク上と考えるべきである。しかし重箱の隅をつつくような悪問ではないの

Benesse® お茶の水ゼミナール

で消去法などで対応できるはずである。出題分野は 1500 年以降と限定されている中でも第二次世界大戦後の欧米史が 20% で圧倒的に多い。この時代は一般受験生が苦手としている分野であるが、本学部受験生は得意としなければならない。経済に関する設問が例年多いから出来れば高校での政経の授業も利用し、世界史の資料集を普段から活用してもらいたい。大学で学ぶ経済に関心なくしての合格はありえないと考えるべきである。

大問別分析

【I】

予想配点 50 / 150 点	時間配分の目安 22 / 80 分
出題分野・テーマ 旧ソ連の地域紛争	
出題形式 選択・論述 (90 字)・その他 (年代並び替え)	

●小問別難易度&解答のポイント&学習対策等

※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す

昨年 8 月のロシアによるグルジア侵攻が背景の時事問題である。ロシアはグルジアからの独立を求める南オセチアに対する支援の名目でグルジアへ侵攻した。ソ連崩壊当時にはよく出題された旧ソ連の地域紛争というテーマであるが、最近はあまり出題がされなかった。時事問題への関心は絶対必要である。

問 1 難易度 B

2 問完答となると厳しい。1 リューリクがノヴゴロド国を建設したのは 862 年、オレーグがドニエプル川流域のキエフへ移動し公国を建設したのが 882 年に対し、第 2 次ブルガリア王国 (1187～1393) が、衰退した東ローマ (ビザンツ) 帝国より独立を回復したのは 1187 年。4 スウェーデンは 9 世紀以来フィンランドを支配するが、ナポレオンに協力したことからウィーン会議でフィンランドを失い、ロシアに割譲する。フィンランドが独立するのはロシア革命でロシアが混乱した 1917 年である。

問 2 難易度 A

メフメト 2 世は 1453 年にビザンツ帝国を滅ぼすオスマン帝国のスルタン。14 世紀末は 1396 年のニコポリスの戦い、1402 年のアンカラの戦いのバヤジット 1 世である。

問 3 難易度 A

消去法でなんとかなるが、ポーランドの貴族をシュラフタと呼ぶことは覚えていたほうがいい。

問 4 難易度 B

字数が意外に多いので具体的事例が必要となる。キリスト教ではなくギリシアを題材としたポッティチェリを出すことがベストである。

問 5 a b 難易度 A

常識。

b 難易度 A

常識。

c 難易度 A

知識としては教科書を越えた単語であるが、消去法で残るのはセミョーフ。覚える必要はない。

問 6 難易度 B

テーマとしては書き易い、頻度が高いテーマといえるが、必要な語句を漏らさず書けるか、つまり論述問題に書き慣れていることがポイントである。お茶ゼミ後期の論述対策を毎回講師に提出し

Benesse® お茶の水ゼミナール

ドバイスをもらうこと、直前特訓の論述対策テストゼミを受講することである。

問7 難易度B

2問完答となると厳しい。2ソ連邦の成立は1922年、対ソ干涉戦争の代表であるシベリア出兵は1918年である。4バルト3国を併合したのはドイツではなく、バルト海への進出をめざすソ連、1939年8月23日の独ソ不可侵条約の秘密協定に含まれ、独ソ間で約束されていた。

問8 難易度B

これぐらい出来ないと慶應経済学部は無理と言いたいが、フランスシラク大統領の核実験とパキスタンの核実験の順序は難問。ただそれだけに合否の分岐点となる。

問9 難易度A

2問完答となると厳しい。1988年ゴルバチョフの新ベオグラード宣言は、1968年のチェコ事件（プラハの春）に対する社会主義諸国全体の利益は、各国の個別な利益に優先するという主権制限論（ブレジネフ＝ドクトリン）を否定し、社会主義諸国に対するソ連の指導性を否定した宣言。これが翌年1989年の東欧革命、1990年のドイツ統合へとつながる。

問10 a 難易度C、b 難易度C、c 難易度B、d 難易度C、e 難易度B

旧ソ連のザカフカースがグルジア・アルメニア・アゼルバイジャンに分離されたことはソ連崩壊当時の入試問題ではよく出題されたが、現在ではきびしい出題である。aアゼルバイジャンがdナゴルノ・カラバフ問題でこれを支持するbアルメニアと戦争がおきたこと、cグルジアのe南オセチアの独立を巡る問題は時事問題の典型である。c・eが合否の分岐点。対策はお茶ゼミの後期戦後史、後期各国史の授業で扱う、合格への条件は個々のニュースへの関心である。

f 難易度B、g 難易度B

ソ連崩壊後ロシア領内でチェチェン・イングーシ自治国が独立したが、イングーシはロシアの覇権を認め、チェチェンはロシアに対して完全独立を要求したことから、これまでに2002年のモスクワ劇場占拠事件などが起こっている。

【II】

予想配点 20 / 150 点	時間配分の目安 13 / 80 分
出題分野・テーマ カリブ海地域（特にメキシコ）の歴史	
出題形式 正誤・選択・記述	

●小問別難易度&解答のポイント&学習対策等

※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す

メキシコ史はラテンアメリカでは頻度が高く、人名もたくさん登場するが、現代アートのシケイロスまで出題されるとは…。しかし落ち着いて解けば消去法で得点は出来る、難題であってもいかに落ち着いて問題に対応できるかである。

問11 1 難易度A

山川用語集頻度①受験生にはきびしい出題かもしれないが、お茶ゼミでは扱っている。ただ選択肢はない、書けるかな？ メキシコのアカプルコからガレオン船で新大陸の銀をフィリピンのマニラ経由で中国・ヨーロッパに持ち込む貿易をガレオン（アカプルコ）貿易と呼ぶ。

2 難易度B

1三段櫓船、4ダウ船は消えるが説明文から判断して欲しい問題。普段から教科書・資料集などをこまめに見ておくことが必要である。

問12 難易度B

Benesse® お茶の水ゼミナール

大西洋三角貿易にバルト海沿岸の5リューベックはありえない。6モノモタパは石造遺跡であるジンバブエ遺跡で有名なザンベジ川流域の国家、西アフリカではない。ポルトガル人との奴隷貿易で繁栄したのは西アフリカ（ニジェール川下流域）の黒人国家ベニン王国（14C～19C）である。2問完答となると厳しいかもしれない。

問 13 1 a 難易度 B

地理的教養といえばそれまでだが、普段から教科書・資料集の地図に慣れておくこと。

b 難易度 A

サンフランシスコ・ロサンジェルスがカリフォルニア州であること L I の間がテキサスであることは必須知識である。

2 a 難易度 B

フランス・イギリス・スペインの共同出兵。ナポレオン3世がオーストリア皇帝の弟マクシミリアンをメキシコ皇帝としようとしたのは1862年の単独での第2次出兵である。オーストリアと判断ミスするのではないか、合否の分岐点となる。

b 難易度 A

こんな問題を間違える受験生は慶應経済を受験する生徒にはいない。

3 難易度 A

間違えやすい問題である。メキシコはラテンアメリカではもっとも人名がよく出てくるが混乱してはいけぬ。米墨戦争（1846～48）に敗れた白人のサンタ=アナ独裁政権が敗れ、カリフォルニア・ニューメキシコをアメリカに割譲し、領土縮小・賠償金をインディオへの重税で克服しようとする自由主義革命（1855）が起こり、インディオ出身のファレス大統領（任1858～72）が就任。革命派と反革命派によるメキシコ内乱（1861～67）となり、仏・英・西が共同出兵（1861）、フランスのナポレオン3世が単独で再出兵した（1862）。ディアスは独裁政権の大統領（任1877～80、84～1911）メキシコ革命（1910～17）で追放、自由主義者マデロが大統領に就任（任1911～13）。しかし、右派クーデタでマデロも失脚（1913）、農民指導者サパタ・ビリャ etc. 革命派の全国的蜂起。農地改革・地下資源の国有化・政教分離 etc. 憲法制定（1917）を制定したのがカランサ大統領（任1917～20）である。

4 a 難易度 C、b 難易度 C、c 難易度 B

メキシコ壁画運動のシケイロスは山川用語集頻度①、メキシコ革命やスペイン内戦にも参加して活動する芸術家である。勘のいい受験生は a b c の3問とも消去法で得点しているが、受験生にはやはり難問である。

問 14 1 難易度 A

常識。

世界恐慌におけるフランクリン=ローズベルトの善隣外交でキューバの独立を承認（1934）することはブラット条項（1901～）の廃止を意味する。

2 難易度 A

常識。

1 ウィルソン大統領（民主党 任1913～21） 3 タフト大統領（共和党 任1909～13）

4 マッキンリー大統領（共和党 任1897～1901）

【Ⅲ】

予想配点	50 / 150 点	時間配分の目安	25 / 80 分
出題分野・テーマ	第二次世界大戦後の国際対立と協調		
使用されている資料	史料・地図・表&グラフ		
出題形式	正誤・選択・記述・論述 (60 字)・その他 (年代並び替え)		

●小問別難易度&解答のポイント&学習対策等

※問題難易度：C 難問、B 可否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す

経済に関心を持つ学生を求めているのだからこのような出題は今後も続くと思われる。プラザ合意は昨年出題された。経済に関する過去問は必ずチェックしておきたいものだ。また資料集を見る癖をつけておくこと。

問 15 難易度 A

これぐらいの年代並び替えが出来ないと慶應経済学部は無理。

問 16 1 難易度 A

ア・イ・ウ・エ・オ取りこぼしは認められない。1 問でも間違えれば不合格。

2 難易度 A

あ・いともに常識

3 難易度 B

特に難しい史料問題とは言えない、間違えば合格は難しくなる。史料 2 両国とあるから大西洋憲章、史料 1 対日問題であるからカイロ宣言、史料 4 ドイツ降伏後のソ連の対日参戦を促したヤルタ協定、史料 3 日本に無条件降伏を求めているからポツダム宣言。

問 17 難易度 A

これぐらいの年代並び替えが出来ないと慶應経済学部は無理。

問 18 難易度 A

文章が重要なヒントになっている、この程度の地図問題は取りこぼしは認められない。文章から a リビア、b モロッコ、c チュニジア、d ガーナ、e アルジェリア、f コンゴ、g 文章ではポルトガルから独立したアンゴラの可能性もあるが、地図からモザンビークと判断する。必ず全問正解すること。アフリカ史は夏期講習の現代史、後期の各国史で扱うので、充分対応できる。

問 19 1 難易度 C

グラフがポイント。2 度にわたる急激な原油高騰が石油危機であることが理解できなければ話にならない。1970 年代、2 1980 年代、3 1990 年代。ア 2001、イ 1979、ウ 1997、エ 1973、オ 1993 が前提となる。ウのアジア通貨危機の年代はきびしいだろう。

2 難易度 C

1 と連動する問題で、1 がほぼ正解でないまったく無理、c は 90 年代の急激な落ち込みからアジア通貨危機の影響を受けた韓国、平均的に高い経済成長率を示す d は中国、日本とアメリカの判断が難しいが、a の 80 年代経済不況の深刻化がレーガン大統領 (共和党 任 1981~89) による“双子の赤字” (財政赤字と貿易赤字)、“ブラックマンデー” (1987. 10) での株価大暴落から判断するのは受験生にはきびしいが 3 との連動でアメリカとわかれば。

3 難易度 C

レーガン大統領の経済政策は、双子の赤字からの債務国への転落から先進 5 カ国蔵相、中央銀行総裁がプラザ合意 (1985) で各国政府の為替への協調介入を決めた円高ドル安による対日貿易赤字を削減するが、アメリカの貿易赤字は解消せずアメリカ経済への不信感が“ブラックマンデー” (1987. 10) の株価大暴落へつながった。

【IV】

予想配点 30 / 150 点	時間配分の目安 20 / 80 分
出題分野・テーマ 中国現代史	
使用されている資料 史料	
出題形式 正誤・空所補充・選択・論述 (50 字)・その他 (年代並び替え)	

●小問別難易度&解答のポイント&学習対策等

※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す

中国近現代史は頻出、特に第一次世界大戦以降は受験生が混乱しやすいが、逆に言えば差をつけることが出来る。確実な得点源とすること。

問 20 難易度 A

このレベルの年代並び替えでは取りこぼしは認められない。中国現代史は頻出、確実に満点を取らねば慶應大学経済学部の合格は無理である。

問 21 難易度 B

山川用語集には語句として記載されていないが、お茶ゼミでは後期各国史の中国史で扱う。是非他の受験生に差をつけてもらいたい出題である。

問 22 難易度 A

中ソ関係は 1956 年のソ連共産党 20 回大会におけるフルシチョフによるスターリン批判と平和共存政策に端を発する。コミンフォルムは平和共存政策によって 1956 年解散する。

問 23 難易度 A

日本によって 1937 年 7 月盧溝橋事件からの日中戦争を契機に第 2 次国共合作が成立する。現代史は同年でも順序が大事である。

問 24 a 難易度 A、b 難易度 A、c 難易度 A、d 難易度 A、e 難易度 A

記述ならともかく選択語句がある。全問正解が必要である。チベットはやはり時事問題。今年度の入試で一体どれだけの大学がチベットやダライ=ラマを出題したのだろうか。

問 25 1 a 難易度 B、b 難易度 B、c 難易度 A、d 難易度 A、e 難易度 A

a ロマン=ロランは第一次世界大戦でも反戦運動を展開し、全体主義にも反対したことは有名である。b トマス=マンは今年度の文学部でも出題された。トマス=マンは代表作『魔の山』で 1929 年ノーベル文学賞を受賞。c d e は常識、c ヘミングウェイの『誰がために鐘はなる』はスペイン内戦を描いた作品として著名、d マルローの『希望』はスペイン内戦の前半期を取扱った作品、e 『カタロニア賛歌』はスペインを舞台とした作品である。